

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 (製品名)	パッケージフレッシュ H-20
供給者の会社名称, 住所及び電話番号	
会社名	ダイヤアクアソリューションズ株式会社
住所	東京都千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング
担当部門	東京営業所
電話番号	03-6633-3681
FAX番号	03-6633-3683
メールアドレス	info_das@dia-aqua.co.jp
緊急連絡電話番号	東京営業所: 03-6633-3681
整理番号	DAS-SDS-5302-01
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	除菌剤
使用上の制限	空調機用

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類		
物理化学的危険性	GHS分類基準に該当しない。	
健康に対する有害性	GHS分類基準に該当しない。	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分3
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分3
GHS ラベル要素		
絵表示	なし	
注意喚起語	なし	
危険有害性情報		
H402	水生生物に有害。	
H412	長期継続的影響によって水生生物に有害。	
注意書き		
安全対策		
P273	環境への放出を避けること。	
応急措置	取扱い後は手を洗うこと。	
保管	避けるべき物質の近くに保管しない。	
廃棄		
P501	内容物/容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。	
GHS 分類に関係しない又はGHS で扱われない他の危険有害性	知見なし	
その他の情報	なし	
重要な徴候及び想定される非常事態の概要		
重要な徴候	直接目に接触すると一時的に物理的刺激を起こすことがある。	
非常事態の概要	水路に排出されると環境に対して危険である。	

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
-------------	-----

成分	CAS番号	化審法	安衛法	含有量 (%)
第4級アンモニウム塩類	有り	有り	公表	Trade secret
水	7732-18-5			Trade secret

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動すること。症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	石けんと水で洗い流すこと。刺激が続く場合には医師の診察／手当てを受けること。
眼に入った場合	水で洗うこと。眼の刺激が続く場合は医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。症状が現れたら医師の手当を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	直接目に接触すると一時的に刺激を起こすことがある。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の防護措置にも注意喚起する。
医師に対する特別な注意事項	症状にあった治療を施す。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	棒状水。霧状水。泡消火剤。
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	火災の際は健康に有害なガスが生成することがある。
特有の消火方法	危険でなければ、火災区域から容器を移動させること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。
一般的な火災の危険性	異常な火災や爆発の危険性は知られていない。
特定の消火方法	通常の消火手順を用いること。影響を受けた他の物質の有害性を考慮すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。流出／漏洩箇所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させること。清掃中は適切な保護具および防護服を着用すること。十分な換気を行うこと。流出が著しくて回収できない場合は、地方自治体に連絡すること。個人用保護具については、本SDSの項目8を参照のこと。
環境に対する注意事項	環境への放出を避けること。全ての環境流出に該当する管理または監視要員に通知すること。安全を確認してから、漏洩・流出を止める。下水や水路、地面に排出しないこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	製品を排水施設に流してはならない。 大量の漏出：リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。可能な場合は漏出物を堰き止めること。バーミキュライト、乾いた砂または土に吸収し、容器に収納すること。製品回収後、その付近を水で洗い流すこと。 少量の漏出：吸収材（例：布、フリース）で拭き取ること。表面を徹底的に清掃して、残留汚染物を取り除くこと。 絶対に流出物を元の容器に回収して再使用してはならない。廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照のこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策（局所排気、全体換気等）	適切な換気を行うこと。
安全取扱注意事項	環境への放出を避けること。産業衛生に気を配ること。本SDSの項目8で推奨されている個人用保護具を使用すること。
接触回避	詳細については、本SDSの項目10を参照のこと。

衛生対策	本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとること。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	混触禁止物質から離して保管すること（本SDSの項目10を参照）。
安全な容器包装材料	元の容器に密閉して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

暴露限界値	含有成分に関して暴露限界は設定されていない。
設備対策	適切な全体換気を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度を暴露限界値以下に保つこと。暴露限界値が設定されていない場合も、空气中の濃度を適切な濃度以下に抑えること。
保護具	
呼吸用保護具	保護マスク。呼吸用保護具。
手の保護具	保護手袋
眼、顔面の保護具	保護眼鏡／ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体。
形状	液体
色	無色～淡褐色 透明
臭い	わずかに芳香性を有する特異臭
融点／凝固点	77 - 79 (第4級アンモニウム塩類)
沸点又は初留点及び沸点範囲	知見なし
可燃性	該当しない
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
燃焼又は爆発範囲の下限 (%)	知見なし
燃焼又は爆発範囲の上限 (%)	知見なし
引火点	知見なし
自然発火点	知見なし
分解温度	知見なし
pH	7 - 8.5
動粘性率	知見なし
溶解度	
溶解度 (水)	589g/100g (第4級アンモニウム塩類)
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	知見なし
蒸気圧	知見なし
密度及び／又は相対密度	
密度	知見なし
比重 (相対密度)	≒ 1.0
相対ガス密度	知見なし
粒子特性	知見なし
その他の情報	
爆発性状	爆発物でない
酸化能力	酸化性でない

10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定である。
化学的安定性	UV長波長光(360nm)に対して安定(第4級アンモニウム塩類)。 UV短波長光(254nm)に対して不安定(第4級アンモニウム塩類)。
危険有害反応可能性	知見なし。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	知見なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口ラットLD50 : 200 - 300 mg/kg (第4級アンモニウム塩類)
皮膚腐食性／刺激性	長時間の皮膚接触により一時的な刺激を起こすことがある。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	直接目に接触すると一時的に刺激を起こすことがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性	呼吸器感作性物質ではない。
皮膚感作性	この製品は、皮膚感作性を示す情報は無く可能性は低い。
生殖細胞変異毒性	エームス試験 : 陰性 (第4級アンモニウム塩類) 染色体異常試験 : 染色体異常誘発性は認められない(in vitro) (第4級アンモニウム塩類)
発がん性	知見なし
生殖毒性	この製品は、生殖影響または発達影響を示す情報は無く可能性は低い。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類基準に該当しない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類基準に該当しない。
誤えん有害性	誤えん有害性ではない。

12. 環境影響情報

生態毒性	長期継続的影響によって水生生物に有害。 魚類 LC50 (96h) : 2.6 mg/l (ヒメダカ) (第4級アンモニウム塩類) 甲殻類 EC50 (48h) : 0.012 mg/l (オオミジンコ) (第4級アンモニウム塩類) 藻類 ErC50 (72h) : 0.38 mg/l (第4級アンモニウム塩類)
残留性・分解性	難分解性 (第4級アンモニウム塩類)
生態蓄積性	低蓄積性 (第4級アンモニウム塩類)
土壌中の移動性	知見なし
オゾン層への有害性	知見なし
他の有害影響	知見なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	現地の規定に従い、処分する。空の容器または内張には製品残渣が残っているおそれがある。この物質およびその容器は、安全な方法で廃棄しなければならない。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託すること。回収して再生するか、許可を受けた廃棄物処理場で、密封された容器に納めて廃棄する。本物質を下水 / 水道供給経路に流入させてはならない。薬剤または使用済容器で、池、水路、溝を汚染しないこと。内容物／容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託すること。

14. 輸送上の注意

IATA	危険物には該当しない。
------	-------------

IMDG

危険物には該当しない。

MARPOL73/78 附属書II 及 未確定

びIBC コードによるばら積み輸送

される液体物質

国内規制

国内輸送については 1 5 章の規制に従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法

通知対象物

非該当

表示対象物

非該当

毒物及び劇物取締法

特定毒物

非該当

毒物

非該当

劇物

非該当

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

第一種特定化学物質

非該当

第二種特定化学物質

非該当

監視化学物質

非該当

優先評価化学物質

非該当

届出不要物質

非該当

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

非該当

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

非該当

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

非該当

消防法

非該当

船舶安全法・危規則

非該当

航空法・施行規則

非該当

火薬類取締法

非該当

16. その他の情報

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices
HSDB® - Hazardous Substances Data Bank
IARC発がん性評価モノグラフ
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2019年6月
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告
JIS Z 7252 : 2019 GHS に基づく化学品の分類方法
JIS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル、作業場内の表示
及び安全データシート (SDS)
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。また、GHS分類は国内の基準に従った分類であり、海外での基準に従った分類とは一部で異なる場合があります。